

## 屋久島悠久の歴史に感動

十一月七日、岐阜県の「飛騨フォレストレディーズ」、**「花・水・木」**等の一行二十四名が、屋久島の林業視察のため、保全センターを訪れました。

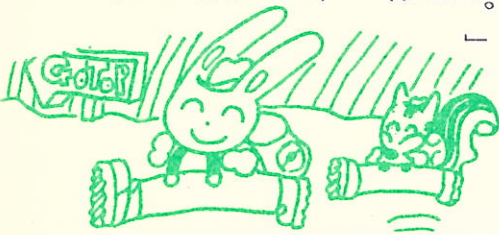
飛騨フォレストレディーズは、山村で生活し林業に興味のある女性によって、林業技術の学習及び研修活動を通じて山村の活性化を図ることを目的に結成されたグループです。今回は、女性林業愛好会「花・水・木」と合同で屋久島の視察に訪れたものです。

一行は、会議室で屋久島の概要、保全センターの業務、屋久島国有林の概要と歴史等について、屋久島営林署長及び保全センター所長から説明を受け、翌日は保全センター所長と庶務主任官の案内で、縄文杉登山を行いました。

縄文杉やウイロンソク株を目の当たりにした時には、さすがにそのスケールの大きさと歴史の深さに「何千年も生きてきたのか。」「縄文杉の歴史と比べたら自分がちっぽけに見える。」

等と全員が感懐している様子でした。

また、樹木や草本等について、質問が多数飛び出しグループ名のおり自然に



十一月十六・十七日の両日、上屋久町主催のツアーデーマーチが開催され、全国各地から訪れた参加者が、自分の体力に合ったコースをウォーキングし屋久島の自然を満喫しました。

## 揃いのハットで国有林をPR

またそれに併せて十七日に開催された「特産品祭り」に屋久島営林署と保全センターの合同で国有林コーナーを設置し、セルフガイドブックや屋久杉の木片、サカキ等を即売しました。

## プロット調査の結果を発表

十一月二七・二八日の両日にわたって、「平成八年度森林の流域管理システム推進発表大会」が、熊本営林局で開催されました。

保全センターからは、下崎専門官と下村庶務主任官が、「照葉樹林帯におけるモニタリングプロットの設定について」という題目で共同発表しました。

これは、平成七年度に設定した4haのモニタリングプロットの現在の現在までの調査結果を報告するもので、屋久島の概要、課題を取り上げた背景調査の手法、集計結果、考察について発表しました。

審査の結果、惜しくも入賞はなりませんでしたが、これからは、保全センターの仕事からも、少しでも多くの人に理解してもらおうという意味から、このような発表の場には積極的に参加していきたいと考えています。

## 屋久島の植物



カツワブキ(きく科)

世界で種子島・屋久島だけに生育する常緑多年草。花は、ツワブキと同様に十一月頃から咲き始め、白谷雲水峡への道路沿いや、尾之間登山道など島内に広く見られる。葉の縁に二重鋸歯があり、ツワブキと見誤ることはない。葉は黄緑色で、頭花はツワブキよりやや小振り、花の間隔も大きい。

## お別れにあたって

追田 秋美



昨年の三月一日、林野庁で初めての組織として屋久島森林環境保全センターが設置され、初代責任者として地域に愛され、明るく楽しい職場づくりを目指して努力してきましたが、結果はどうだったか迷うところです。

センター発足時は、業務運営の手引きがなく、上司の指

## 人の動き

十二月一日付け長官発令  
中津営林署・署長  
追田 秋美(センター所長)  
十二月一日付け局長発令  
保全センター所長  
井手 征男(森林整備課)  
屋久島営林署次長  
深田 尊熙(出水営林署)  
法務省出向  
樋口 久雄(営林署次長)

導と職員全員で知恵を出し合い、センター設置記念シンポジウムの開催、ガイドブック「屋久島の森林」や洋上アルプスの発行、縄文杉展望デッキの設置、白谷雲水峡での森林整備推進協力金制度の発足、さつき吊り橋の掛け替え工事や谷止工(十一基)の施行等々、さまざまな事業を実行してきました。

一年九ヶ月の短い期間ではありましたが、自分なりに充実した毎日を送ることができました。これも、ひとえに係機関および職員の皆様の御協力の賜と厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

屋久島にお別れをするにあたり、人と自然との共存共栄が調和され、すばらしい屋久島の大自然を後世に引き継ぐために、保全センターが先導的役割を發揮され、揺るぎない組織として発展されることをお祈りします。